

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立北山小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童（生徒）一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童（生徒）の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和4年4月19日（火）

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

- | |
|---|
| ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。 |
|---|

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

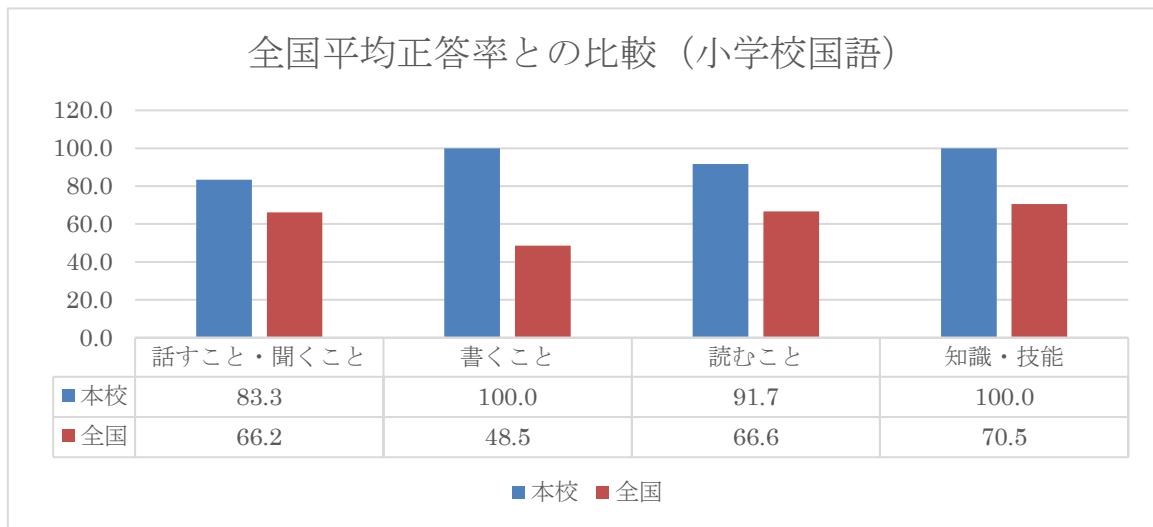
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

全ての領域で全国平均正答率を上回っています。また、無解答はなく、全ての問題に解答することができていました。

(2) 成果と課題

成果としては、全ての領域「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」で、全国平均を上回ることができました。特に、「書くこと」と「知識・技能」では、100%の正答率を達成することができました。普段から、漢字や言葉の学習、音読などの成果が表れていると考えられます。

課題は、正答率 66.7%の記述式の問題です。「互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる。」問題や「人物像や物語の全体像を具体的に想像する。」問題で誤答がありました。日頃の授業の中で、相手意識をもたせて自分の考えをまとめさせたり、想像する場面を授業の中で仕組んだりすることで、思考力が育ち、書く活動を授業の中で取り入れることで、「思考力・判断力・表現力」の力が定着していくと考えます。

(3) 学力向上のための取り組み

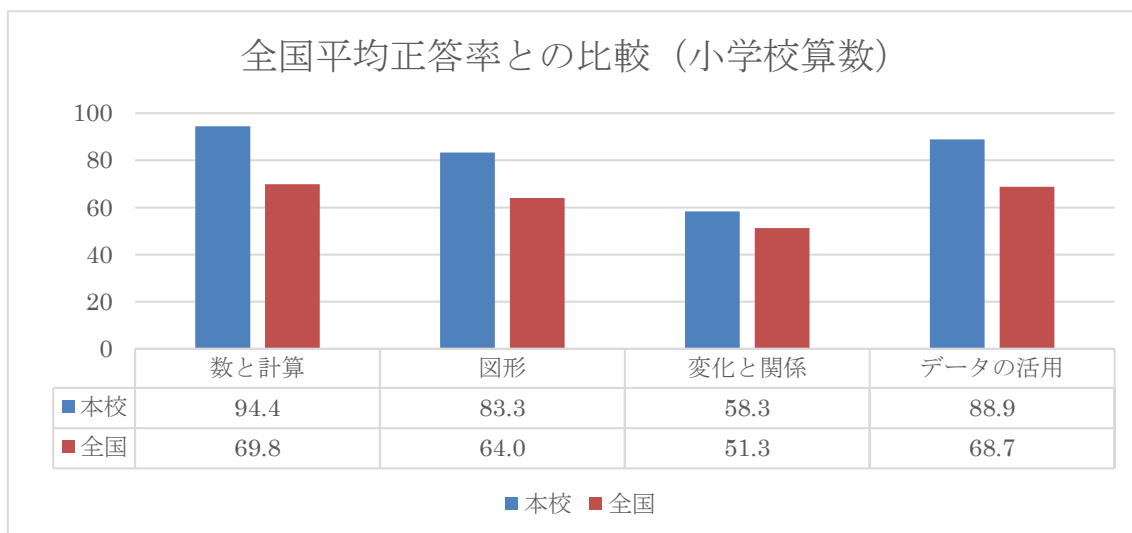
【学校では】

- 子供同士が主体的に話し合いながら、協働によって深く学んでいけるよう、主体的・対話的で深い学びの授業の在り方を工夫します。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながらか書く機会を増やします。
- 漢字の読み書き、ことわざ等の学習に一層力を入れるとともに、辞書を活用させ、語彙力を高めます。
- インタビュー、案内や紹介など、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていましよう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしていましよう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろんな本を読み、いろんな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。定期的に図書館等に行き、本の感想について親子で話すことも、子供の読書習慣や読解力、思考力、表現力を付ける上でおすすめです。

2 算数



(1) 結果

全ての領域で全国平均正答率を上回っています。また、無解答はなく、全ての問題に解答することができていました。

(2) 成果と課題

成果としては、全ての領域「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」で、全国平均を上回ることができました。特に、「数と計算」「データの活用」では、全国平均よりも 20 ポイント上回ることができました。また評価の観点に目を移すと、「思考・判断・表現」では、全国平均よりも 30 ポイントも上回り、学んだことを生かす力が身に付いていることが分かります。

課題は、「変化と関係」です。その中でも、特に「割合」に課題が見られます。百分率で表された割合を分数で表す問題や数量が変わっても割合は変わらない問題については、全国平均、県平均に達していませんでした。割合の問題を解く場合に必要となる基準量、比較量、割合の関係把握や伴って変わる二つの数量の関係について考察する力等が十分身に付いていなかったと言えます。

(3) 学力向上のための取り組み

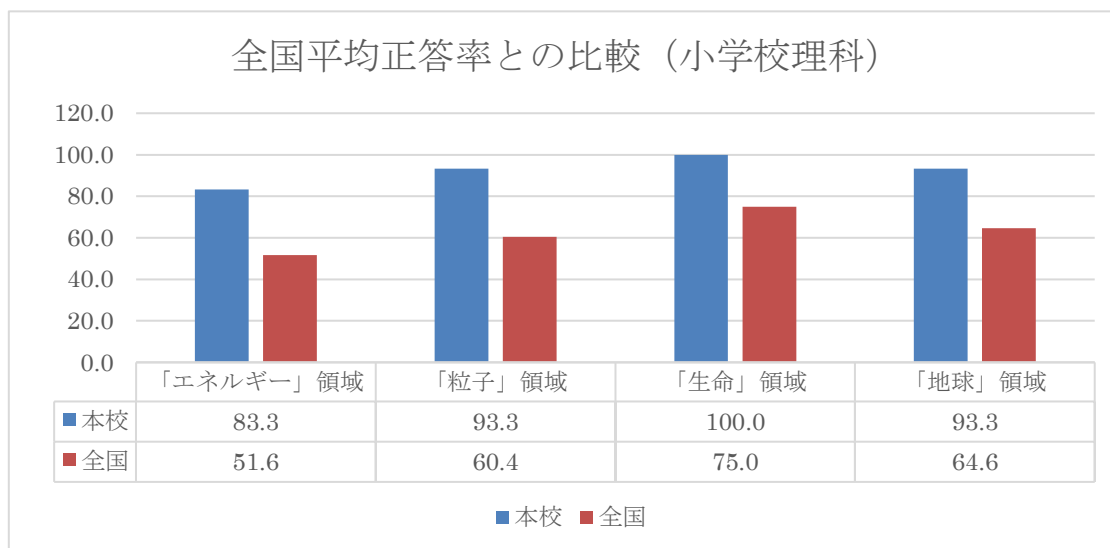
【学校では】

- 式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させるようにします。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- TT（チーム・ティーチング）や少人数指導、ノートチェック、プリント、ドリル、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見付け、補充指導に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 算数が好きになるには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」という経験をさせることが有効です。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」「車のナンバープレートでかけ算」など、ちょっと意識するだけで、身のまわりには算数を使えるものが意外とあります。

3 理科



(1) 結果

全ての領域で全国平均正答率を上回っています。また、無解答はなく、全ての問題に解答することができていました。

(2) 成果と課題

成果としては、全ての領域で、全国平均を上回ることができました。特に、「エネルギー」領域、「粒子」領域では、全国平均よりも 30 ポイント以上、上回ることができました。また、実験や観察等で収集した情報や結果を分析し、自分の考えをもとに記述することができていました。

課題は、実験器具の名前を問う問題や、光の性質の基礎的な問題です。基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る必要があります。

日々の授業では、学習の基礎・基本となる「知識・技能」面を確実に定着させるとともに、実験や観察の結果を考察し、自分の言葉でまとめる学習活動を継続して行っていきます。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 実験・観察のねらいを明確にし、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ります。
- 北山校授業モデル「めあて→見通し→考える→深める→まとめる」を基本として、理科の学習活動を行い、児童の思考力、判断力、表現力を向上させます。
- 対話的な学習活動を取り入れ、実験や観察の結果に対する考察を論理的に考える時間を設けたり、学習内容をまとめる時間を確保したりして、表現力の向上に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんの宿題プリントやテストをご覧になって、励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 「なぜだろう。」や「不思議だな。」と思うことが、理科の学習のスタートです。また、「学校で勉強したことがこれなのか…」と学習と生活経験が結び付くことがあると思います。学びと生活の中で起こる現象を結びつけると理解がより深まります。
- 佐賀県立宇宙科学館や佐賀県立博物館などのイベントチラシ等も配布しております。お時間があるときは、ご家族揃って一緒に行ってみることで、興味・関心を抱ききっかけになると思います。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣・挑戦心・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	100%	84.9%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	66.7%	40.7%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	33.3%	56.8%
自分にはよいところがあると思いますか。	100%	39.4%
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	0%	27.6%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	66.7%	75.1%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	100%	83.9%

朝食と起床と就寝については、「どちらかといえば当てはまる」までの回答で広げると、大方できています。リズムを整え、規則正しい日々の生活を送ることができるよう、学校と家庭が連携・協力して子供の育ちを支えていくことが大事だと思います。

自己肯定感といじめを許さない心については、全国平均よりも上回り、自他を大切にする人権尊重の気持ちが育っています。挑戦心や人の役に立つ気持ちの項目では、肯定的な回答をした児童は全国平均よりも下回っています。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	33.3%	27.5%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	0%	11.3%
「2時間以上、3時間より少ない」	0%	13.8%
「1時間以上、2時間より少ない」	0%	34.3%
「30分以上、1時間より少ない」	100%	25.8%
「30分より少ない」	0%	10.5%
「全くしない」	0%	4.2%

「家で自分で計画を立てて勉強をしている」の項目は全国平均を上回っていますが、普段の一日あたりの勉強時間が1時間未満です。小学校の高学年になってくると、学習内容も増えると共に、日々の積み重ねをすることで身に付く内容になってきます。家庭学習だけではなく、自分自身の学習課題を把握し、自主的に学習に取り組む姿勢と態度が中学校の学習につながっていきます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 子供の良さや頑張りを認め、賞賛したり、励ましたりすることで、自己肯定感を高めていきます。
- 家庭学習は毎日、「音読」「漢字の書き取り」「計算のプリントやドリル」を出します。学期に一度の「家勉強頑張ろう週間」では、自分から進んで勉強に取り組む気持ちを育みます。
- 「みんなが楽しい北山校」になるためにどうすればいいのか、気付き、考え、行動する心を育みます。

【ご家庭では】

- 子どもと大人の信頼関係ができていると、自己肯定感や感性の醸成につながります。親が子供の話に耳を傾けることで、お互いの信頼関係につながっていきます。
- 日々の励ましや賞賛の積み重ねが児童の「やる気」につながっていきます。
- ご家庭でも、早寝・早起き・朝ごはんの取組に、ご理解とご協力をお願いします。